

ROYAL-TIMES

—ロイヤルホームの新しい生活—



写真= 4F庭園 クリスマス飾り

除夜の鐘

小森 公美
2021年 12月 13日

除夜の鐘が聞こえる時期が近づいてきました。実際に聞こえてくる梵鐘の音を、風情があって良いなと思うばかりではいられないようで、近年は近隣住民への配慮等で昼に突く、あるいは突かないお寺もあるようです。除夜の「除」とは古いものから新しいものへと変わる事を意味する言葉だそうです。鐘の音も年毎に更に新しい形で引き継がれていくのかもしれない。

除夜の鐘は人間の内側にある煩惱を除く事を願って108回突くと言われていました。なぜ108なのかは諸説あり、その中には四苦八苦(4×9、8×9)の合計が108だからという説や、日本ではとても大きな数を八で例える事から108だという説もあるそうです。

自分の煩惱と付き合いながら、少しでも気持ちよい年越しができるよう日々過ごしていきたいと思えます。



写真=作業療法士によるグループ訓練の様子 (2021年12月13日)

12月の過ごし方

岡 聖史
2021年 12月 13日

今月はOdakyuのデパ地下レクを実施予定でしたが、法人の都合にて延期となってしまいました。ご入居者様の中には、「是非もう一度やってもらいたいです」と熱望される方もいらっしゃいましたので、本当の申し訳ない思いです。私たちも実現に向けてできる限りの事をしていきます。今しばらくお待ちいただければ幸いです。

さて、今月はOdakyuの代わりにご入居者様のホームでの過ごし方・ご様子についてお伝えいたします。

緊急事態宣言が解除され、面会も制限つきですが再開され、一時に比べると生活感があるように感じます。ですが、レクリエーションの実施や共有スペースの利用については継続して”警戒しながら”という表現の方が適切かもしれません。

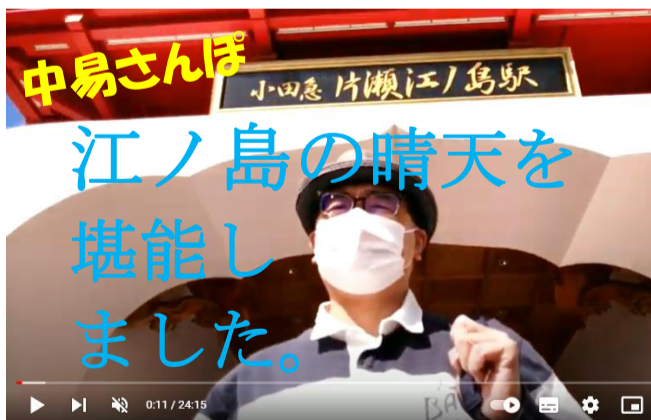
そのような中、作業療法士の塚田さんはご入居者様のグループ訓練を実施していました。この日は上肢と頭をつかった体操です。塚田さん：「はい、では手を

前に反対の手は胸にひいてください」、A様：「あら、えーっと」、B様：「あははは」、C様：「・・・(無言)」、D様「ん・・・」。それぞれのご入居者様がグループでの活動を楽しまれているように見えました。特に、ちょっと難しい課題というのがポイントのようでした。

この日の午後は、別の階にてクリスマスツリーの工作が行われていました。円錐形のらせん状と表現したらよいでしょうか、高さが10cm程度のツリーを作成され、装飾を行っていました。「きれいね」、「ほんと、そうね」と会話が聞こえてきます。すると、「私は金紙をはりたいのでもらえますか」とリクエストをされているご入居者様もいらっしゃいました。

12月は健康診断もあり、午後のスケジュールはなかなか込み合っているようです。ご家族様のご面会が予定されているご入居者様は、そわそわしているようにも見えます。更に「今日は訪問診療の主治医が回診に来る日です」となると目まぐるしいです。

ご入居者様の12月の過ごし方は、「ゆっくり」とはいかないようでした。



中易散さんぼ (ukoxzo CHANNEL)
久しぶりの中易さんぼです。今回は江の島に出かけました。右のバーコードからご視聴いただけます。 <https://www.youtube.com/watch?v=V07BnCUGFxi>



今月のトピック

マッサージは人気です

委員会活動報告(広報係り)

スタッフ紹介

おしらせ(健康診断2)

マッサージは人気です

石井 太一
2021年 12月 11日

ロイヤルホームでは地域の社会資源と協働して皆様の生活をサポートさせて頂いております。今回は、あおぞら訪問マッサージのご紹介です。鍼灸マッサージ師の古賀渉院長がご希望された曜日に皆様のお部屋へ訪問し、施術を行います。

リハビリテーションとは異なった視点で、東洋医学のルーツを持ち「もむ・おす・なでる」といったアプローチに特化したマッサージ。どんな特色と専門性があるのでしょうか。そこにはマッサージならではの、道筋が展開されていきます。

学生アスリートとしてアメリカンフットボールの経験を経て、マッサージの道に進まれた古賀院長は「あん摩マッサージ指圧師」の国家資格を保有しています。訪問マッサージを希望されるご入居者様は、複数の慢性疾患を抱えながら生活を送られています。それに伴う痺れ、痛み、拘縮、筋力低下などの身体的な困り事を抱えていらっしゃいます。その困り事に対して、長期的で、普遍的、かつ継続的なマッサージ治療を行っております。

マッサージのサービスを受ける為には、主治医の訪問マッサージ同意書が必要です。古賀院長がご希望された皆様の主治医より同意書の作成を依頼します。医師より同意を得た上で施術を受ける事が可能です。また利用料金は、健康保険等を利用する事で、1割負担約500～600円で30分間施術を受ける事が出来ます。

ご入居者様の慢性疾患から起因する、手足などの身体部位や、関節に生じるこわばりや動きにくさに対して前述した「もむ・おす・なでる」といったマッサージを行い、ご入居者様のお気持ちや、ご入居者様の身体部位に直接問いかけていきます。そしてマッサージで温まったお体に『変形徒手矯正術』を施していきます。この施術は脳血管疾患等で生じた関節可動域が低下した腕や脚等に徐々に関節拡大を促す手法で、「(関節を)伸ばしましょう、曲げましょう」と古賀院長の合図で、ご入居者様が共に行っていく訓練です。曲げ伸ばし運動の改善に繋がります。

ご利用されているご入居者様は「古賀院長の施術は痛い所、こわばっている所を大きな手のひらでもんでくれて何より気持ちがいい、そして気分転換となる」とご感想を述べて下さいました。あおぞら訪問マッサージは、持続可能なケアチームの地域パートナーとしてこれからも皆様をお支えてまいります。



写真=マッサージの様子(2011年12月8日)

スタッフ紹介

2021年12月1日



振り返り

岡 聖史
2021年 12月 1日

割れ窓理論についてです。窓が割れたままにしておく、周囲が「割れていてもいいのだな」、「その程度の水準まで下げていいのだな」と感じ、やがて秩序も乱れていくという考え方です。社会心理学的or経営的な考え方ですが、壊れたものを直す事=お金がかかる、は正解です。しかし、壊れたものを直さない=お金がかからない、は、割れ窓理論からすると不正解です。壊れたものを直さない=職場環境が乱れる、=職員が辞める、=サービスの質が落ちる、=苦情が増える・等、どんどんと良くない方向に働くと言われるのは、個人的に共感できる部分です。すなわち、壊れたものを直さない=よりお金がかかる、が正解ではないでしょうか。財政的な厳しさを理由に修理ができない事も多々あります。その様な場合には、とりあえずの対処と今後の見直し等の説明があれば、割れ窓にはならないのではと考えますが・・・。

お知らせ(健康診断2)

2回/年の頻度で計画している健診を12月に実施しました。今年から総生会健診センターができましたので、こちらで実施いたしました。なお、健診センターでは、標準的な健康診断に加えて、人間ドック、アミノインデックス®(1回の採血で三大疾病[がん・脳卒中・心疾患]と認知機能低下のリスクをチェック)もご用意しています。

健診センターの詳細はこちら ⇒⇒⇒



委員会活動報告(広報係り)

石井 太一
2021年 12月 11日

広報係りは本紙における、ご入居者様インタビューや写真撮影、文章構成といった編集を主な毎月の取り組みとして実施しております。毎月皆様のお手元に届く本紙は、昨年より従来のロイヤルホームだよりを刷新してNewspaper式の『ROYAL-TIMES』として生まれ変わりました。

施設生活における四季に応じたイベントや麻生総合病院をはじめとした法人内連携について、移動販売等の地域資源との関わりの中でのご入居者様のご様子を伝えられる様に日々ペンを走らせております。

刷新から1年以上が経過し、その月に応じたフォーカスする出来事も定着しつつあります。イベントを司る小アクティビティ委員会と一体的となって記事

作成とイベント企画が活性化出来る事を目指しています。クライシス(脅威)となっている感染症の新たな株の蔓延にも注意を払いながら、動画作成や動画中継等デジタルデバイスを駆使したレクリエーション提供にも努めていきます。また施設のホームページで広報のPDF掲載を行い、ロイヤルホームの活動PRを図り新たな人材や地域パートナーとリンク出来れば良いと感じています。